

ちよふの自然だより

47号

ちよふ環境市民会議 <http://chofu-kankyo-shimin.org> 発行部数：1000部

2018.11

12月1日、仙川駅前公園からカニ山まで国分寺崖線（古代多摩川が削った崖）をたどるウォークイベントが開催されます。

調布で一番おしゃれな街仙川から、雑木林を抜け甲州街道を渡りカニ山までのルート上には紹介ポイントの他にもみどころ満載！ぜひ参加してみてください。



★若葉町樹林・入間町樹林は市民の保全活動により守られている雑木林です。あなたも参加してみませんか？

★実篤公園 武者小路実篤の晩年の邸宅が残されています。湧水の池と、雑木林の庭は、国分寺崖線を生かした住まいでした。

★山犬が出た!? 江戸後期の深大寺参詣路

ほぼ二百年前の文化十二（一八

CHOFU みどりの国分寺崖線ウォーク2018

～調布の水と緑を訪ねて～

（一五）年四月、十方庵敬順という江戸・小日向（現・文京区）の隠居僧が深大寺に参詣した際の紀行文が、著書『遊歴雑記』に収められています。

敬順は深大寺への道筋をこんなふうに記録しました。

①甲州街道を下仙川村で北に入る。②坂を下って耕地に出るが、また松林を登って林を通る。③およそ一里（4キロ）の一本道だが人家はなく、茶店などもない。

④かつて「山犬」（ニホンオオカミ）が出没したとの噂を聞いたので、下仙川村で案内人を雇った。

下仙川村は現在の仙川町・緑ヶ丘に当たり、参詣路は滝坂で甲州街道から分岐していました。実際、滝坂には「是ヨリ大師尊参詣道」と



石造道標



深大寺参道復元



紅葉のカニ山

刻まれた高さ2m30cmの石造道標（一八二〇年再建）が、東京五輪のための道路拡幅時まであったのです（現在は深大寺境内に移転し写真）。戦前の地形図上でこの参詣路をたどると、地図の「参詣路 その1」の



★カニ山 野草園のあたりが谷戸地形（谷）になつているため湧水が小川となり、昔はその清らかな水にホタルが舞い、サワガニが子どもたちの遊び相手でした。この林の一部も市民が保全活動をしています。ひきずり坂下の田んぼから見る紅葉風景は一見の価値あり。

ようになります。「山犬」が出るほど寂しいこのルートだけでなく、左須街道から北上する「参詣路 その2」も使われていたようです。

今回の崖線ウォークのルートは、つじヶ丘公園のチェックポイント手前で「参詣路 その1」を通ります。その辺りは谷筋が入り組んだ複雑な地形で、敬順が②で書いているように、下り坂と上り坂が交互に現れます。

★つじヶ丘公園は武蔵野の自然を愛する蛭澤藍川（本名 田中澤 二 立憲養生會創始者）が昭和十一年（一九三六）に数千坪の土地に池と島を築き作った庭園です。一九五七年に亡くなった後、弟子たちが「らんせん池」と名付けました。一九七四年からは550坪余りが公園となつています。現在は湧水を確認できませんが、一九四二～四四年側の地形図には、池とともに湧水のマークがあります。

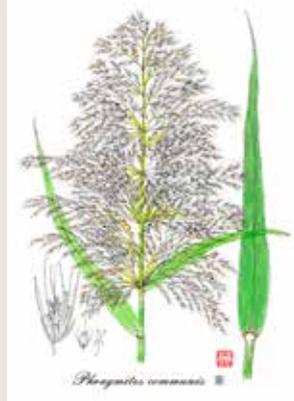


我

が国は「豊原瑞穂国」と呼ばれてきたように、昔は列島中にアシが生えていたものと思われ、東京都中央区の地名に日本橋茅場町や日本橋浪花町（現在は日本橋富沢町の一部）、日本橋芳町（現在の人形町の一部）など、植物のヨシを思わせる地名がみられる。

浪花町は大阪方面からの回船が多く着いた場所ので、明治時代に難波町から改称された地名。芳町は江戸時代の初めごろまではヨシの群生地、茅場町は江戸城拡張工事の折、神田橋付近にあった茅商人が移住した地。

ヨシは葭ヨシズを編むだけでなく、屋根を葺いたり、古くは枯れたヨシを燃料として使われてきた。「浪速のアシは伊勢のハマオギ」（救済法師）と言われ、これが江戸になると、アシは「悪し」に通じ縁起が悪いからと逆の意味の「良し、吉し、芳」に通じるように名を換えて、「浪速の



Phragmites australis

花の履歴書

51 戸部英貞(絵・文)

ヨシ(蘆・葦) 難波 イネ科
 〓アシ・古名〓ハマオギ(浜荻)

アシは江戸のヨシ」とした。このような地名や言い伝えが残るヨシは温帯から熱帯にかけての湿地帯に広く分布している。主に河川の下流域や汽水域、干潟の陸側に多く自生し、地下茎を伸ばし、しばしば広大なヨシ原を作っている。このような場所は流れてきた土砂がたまり、小動物の隠れ家になると同時に水の浄化の働きをしている。

多摩川でも上流域には地上を匍匐するツルヨシが自生し、中流域からヨシがみられるようになり、下流域ではヨシが優先するようになる。

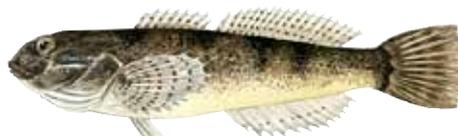
現在では葭ヨシズの需要は減少したが、ヨシ原の自然浄化作用が見直され、近年ではその復元が行われる地域が多くなってきた。葦アシ、葦アシ、クラリネットなど木管楽器のリード、そのほか最近ではパルプなどにも利用されている。

昔の多摩川.....10

『榎本 勉さんのお話』

●昭和13年 上げ給(国領町あたり)生まれ

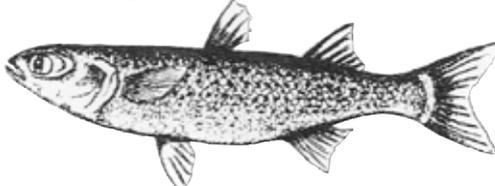
ニゴイ：ダム(ニヶ領上河原堰)上流に棲む。調布ではサイとかセイボウと呼んでいた。食べたことはないがテレビ番組でこの魚を塩釜にしているところを見た。



カジカ：調布も昔はカジカの棲む場所があった。染地の五本松公園の上流の方で、30坪ほどの深めの丸いたまりのような所に水が少し流れている。冬になるとそこに卵を産むので2月頃トりに行ったことがある。食べたことは無いが黄色かった。花の履歴書の戸部先生も同じことを体験しているらしい。

多摩川で当時とれた主な魚

落鮎：鮎江のダムの所に10月を過ぎて落鮎(産卵のために流下する)をとりに行き、20匹くらいとれたことがある(昭和30年くらい)。20cmを超すアユで黄色っぽかった。



マルタウグイ：平成13年頃からワンドの先の浅い流れに大量のマルタウグイがいるのを見たことがある。船などが通ると飛び跳ねる魚だが、今は投げ網をやる人、つり人の情報がないので増えているのか分からない。骨が多い魚なのでカマボコ(魚のすり身)の材料にするとか。当時とれた50cmくらいあるマルタウグイが調布郷土博物館に剥製で保存されている。

農家はお盆を過ぎる8月15日後にやつと漁にでられる。投げ網、ビク、箱メガネ、足中(アシナカ)にヤスを持ってでかける。昔は川のそばは草が生い茂ってなかったもので、やりやすかった。その時によつて4〜7人くらいで出かける。

網を投げると魚は真っ先に上流に逃げるので、助手の役をする人はそんな魚を発見するとヤスを刺してとりあえずメガネの中に入れておく。そんなことを2時間半くらい続ける。鮎も20匹くらいとれればいいんだ。

入間・樹林の会

■8月18日(土)「晴れ」
参加9名

林内巡回
後、クズの
伐採、雑木
林広場・落
葉溜め周
圍・三角地
に分かれて下草刈りを行っ
た。今年2回目の三角地の
草刈は草も柔らかく刈り取りが
スムーズに行えた。



■9月15日(土)「大雨」参加9名



初めての大雨
の中、新たな取
得地で竹の伐採・
クズ伐採を行っ
た。繁茂してい
たクズを伐採す
るとすつきりした。伐採した竹
は粗朶柵に活用したい。

■10月21日(日)「晴れ」参加10名

台風24号の被害の確認を行っ
たが、隣の民有地からのシラカ
シは太い幹から折れフェンスを
倒していた。市が林内の通路は
通れるように落枝や倒木を伐採
し太い幹は玉切りしてくれてい
たので、11月の活動は山積みさ
れている枝な
どの処理をす
る予定。全員
で植生調査を
行い、ケヤキ・
ムクノキ等の
見分け方を学
んだ。(安部)



カニ山の会

■8月7日(火)「曇り」
一味会とカニ山会員数名
でソバ畑について懇談

■8月11日(土)「晴れ」
参加10名

キャンプ場北及び東樹林東
のクズ・ササ刈り取り。

■9月8日(土)「晴れ」
参加10名

東樹林東は市の委託業者に
より、実生苗やヤブラン等を残
し、丁寧な草刈作業が行われ
ていた。全員でゴミ拾いとクズの
根の除去。キャンプ場北も草刈。
曇さのため昼で終了。

■10月8日(日)「晴れ」参加7名



臨時作業
台風25号
は近年にな
り強風の台
風だったた
め、樹林の
被害も甚大
なものだっ
た。大きな
ものとして
は東樹林中
央付近のクヌギの大木の枝折
れ。まずは大枝の2本を切り落
とす。切り落とした枝を丸太切
りにして小枝と分け1か所に積
むだけでも大仕事。他の樹木
の折れた枝なども処理して午後
まで頑張った。

■10月13日(土)「曇り」参加9名

クズの根退治。涼しくなっ
て午後までの作業。(活動報告より)

若葉緑地の会

■8月12日(日)「曇り」
参加2名

定例活動日だがお盆休み
と重なり、少人数で緑地内
外の清掃のみ。

■8月26日(日)「晴れ」
参加4名

臨時の活動で草刈り。北側
の隣接住宅のフェンスに
1m以上の高さで絡んだク
ズ、アズマネザサなどを集中
的に除去。

■9月9日(日)「晴れ」参加2名

南側の隣接住宅から要請が
あった、青空広場下の草刈り。
当該地はホトトギス、ハルノユ
キノシタ、スミレなどが混在し
ているので、背の高いものから
慎重に刈り込んだ。

■10月1日(日)「晴れ」参加1名

未明から台風24号の暴風。第
3緑地ではオオシマザクラが倒
れて外周道
路を塞い
だ。緑と公
園課に連絡
し、午前中
に除去して
もらった。
高所に引
かかった折
れ枝などは、すぐには処理でき
ない。

■10月14日(日)「曇り」参加4名

台風被害の片付けに終始。散
乱した枝などを集積すると、人
の背丈ほどに。(辻・大村)



若葉の森3・1会

■9月2日(日)「雨」
雨天中止

■10月7日(月)「快晴」
参加7名

台風24号で大木や竹が折
れた後始末を皆でした。第
1緑地ではコナラとヒサカ
キを、第2緑地ではコナラ
と竹を処分。

■9月23日(日)「晴れ」参加9名

調布市から再度提案があり、
10月の活動日に検討した。会
として第1緑地の利用方法を考
慮したゾーニング案を提出して、
話し合う予定である。
その他に六別坂落ち葉掻き、
ゴミ拾い。(NOK)



台風により折れた竹や木の処分



ヨウシュヤマゴボウ 根付いた緑化方形枠

凸凹森の会

■8月26日(日)「晴れ」
参加5名

生い茂った雑草に閉口!
栗の木周辺に絞ってひたす
ら草刈り。

■9月9日(日)「晴れ」
参加4名

国分寺崖線ウォーク実踏
調査南。凸凹森の会からは
4名参加。調布市内でも、
ところ変われば地形も異なり、
歩いてみると興味深かったです。

■9月23日(日)「晴れ」参加9名



今年も山栗
が沢山採れま
した。草の根
元に様々なキ
ノコも見られ
ました。子ど
もたちは栗拾
いにはすぐ飽きて、バツヤコ
オロギに夢中になって遊び始め
ました。

■10月28日(日)「晴れ」参加3名

大型台風の通過以降はじめて
現地に。大木が倒れるという被害
は無かったものの、梢の大き
な枝が折れて落ちていたり、途
中で引っかけたまま枯れ、足
下にも大量の小枝が散乱してい
ました。(石原)



第5回 安全講習会 ～ボランティアのための 緑地の管理と安全作業～

10月27日(土) 参加者 12名

今回で5回目となり調布市で市民が保全する樹林地を講習場所として「巡ることができた。」
午前中の松井一郎先生(森づくりフォーラム理事)のお話は「森林の多面的機能」から始まる。公益的機能としての環境の浄化や保全、物質生産としての木材や医薬品の生産、人間との関わり機能として文化歴史や保険・教育など。そして最近注目されるようになった生物生息機能は生物多様性という言葉で私達も広く知るようになった。
森林ということには森と林があるが、森は自然のままでは人の手が入ったものを意味する。つまり保全作業は雑木林の遷移をとめ、理想と



←受け口追いつが見事並行に切れている。直径5cmほどの木は受け口もノコ目だけでよい。



↑ナタを使ってクイを作る時の姿勢。棒を持つ手はまっすぐ伸ばして棒を斜めに、ナタを持つ手は小指と薬指に力を入れ耳のあたりからナタの重さで振り下ろす。刃は棒に対して45度に切り込むように。



↑ノコ目を平行にするにはまず手の上に乗せてバランスをとり刃に合せて切る。ノコを持つときは手首に力が入らないようにし、なるべく体の中心で切る。ノコの峰は持たないこと、材を抑える手はノコ刃より10cm以上離すこと。



↑クイを打ち込むときの安全確保のためスリングを使用。

する状態に保つことであること。
理想の状態というのは個人の好みや社会状況によっても変わると思うが今回の講座では・薪炭林・生物多様性の豊かな森・高木景観林(林床は低木や草本で覆われている大径木の広葉樹林)・階層構造がはっきりしている雑木林(高木層・亜高木層・低木層・草本層など)といういずれも生物多様性に富んだ林を理想と



↑倒れる方向を制御しながら引くためロープをかける。ネクタイのブレーンソットを引き解け結びにした通称「締め付け結び」の連続の楽しい講習でした。

そして作業前の注意事項を頭に入れ若葉町第2樹林へと移動し様々な作業のコツを学んだ。分かつているように忘れていくことも多く、今回もなるほどの連続の楽しい講習でした。



松井先生の身支度は首仕舞い袖仕舞い足仕舞いのお手本。道具はすぐにケースに入れるようベルトに入れるしておくこと。

市民発 ちょうふの自然だより

編集後記

47号という中途半端な号からのデザイン一新。2世紀47号とはつまり147号のことで、初めはモノクロコピーだったのを「1度くらいカラーで出したいね」と100号記念にカラーにしたら病みつきに(?)。そこで生まれ変わって2世紀というわけですが、それまでは毎月気楽に出していたのをカラーともなるとそうもいわず、今回デザイナーさんに頼んだので、さらに緊張感が…。この気分が記事の面白さにつながることを祈って!! (K)

発行：ちょうふ環境市民会議
連絡先：info@chofu-kankyo-shimin.org
※携帯メールでのお問い合わせには当方の返信が届かない場合があります。

雑木林保全活動のスケジュール

人間・樹林の会

毎月第3日曜に樹林の保全活動を行っています。参加希望者は直接入間地域センターへ。

- 11月18日(日) 9:30～12:30
- 12月16日(日) 9:30～12:30
- 1月20日(日) 9:30～15:30
植生調査・保全活動及び新年会

カニ山の会

毎月第2土曜に自然広場で保全活動を行っています。参加希望者は野草園横に直接集合。

- 11月10日(土) 10:00～15:00
- 12月8日(土) 10:00～15:00
- 1月11日(日) 10:00～15:00
山開きと新年会

若葉緑地の会

毎月第2日曜に若葉町3丁目第3緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

若葉の森3・1会

原則毎月第1日曜に若葉町3丁目第1・2緑地で保全活動を行っています。参加希望者は直接現地へ。

- 11月11日(日) 9:30～12:00
- 12月9日(日) 9:30～12:00
リースづくりの会(日時未定)
- 1月13日(日) 9:30～15:30

凸凹森の会

原則毎月第4日曜に上石原布田崖線緑地で保全活動をしています。

- 11月4日(日) 9:30～12:00
- 12月2日(日) 9:30～12:00
- 11月25日(日) 9:30～12:00
秋のイベント リース作り
- 12月1日(土) 9:30～12:00
国分寺崖線ウォーク参加
- 1月27日(日) 9:30～12:00

※上の5団体の保全活動問合せは、調布市役所「緑と公園課」Tel. 042-481-7083 へ

◆「ちょうふの自然だより」は、カンパとボランティアで支えられています。2009.3.15に設立された市民団体「ちょうふ環境市民会議」が自主発行しています。調布市内の身近な自然情報や市民の保全活動の記録、環境イベント案内、コラムなどを掲載、無料で配布しています。
◆本誌は、地域福祉センター、たづくり11Fみんなの広場、調布市環境部(市役所8F)、あくろす2・3F、多摩川自然情報館のほか、神代植物公園植物多様性センター、てらのサウルス(国領)、えねこや、みさと屋(布田)、おぎもと内科クリニックなどに置いています。
本誌の「置き場所&応援カンパ」募集中です! ◆会員募集! 年会費 ●会員:1000円/●サポーター会員:500円 郵便振替(00150-9-765663 ちょうふ 環境市民会議)

この「ちょうふの自然だより」は、ちょうふ環境市民会議ホームページにも掲載、バックナンバーもご覧になれます。http://chofu-kankyo-shimin.org